

戦時 輸送船

大西
洋
戦
争
編

ビジュアルガイド

岩重多四郎 著

3

War-time
Merchant
Ships
Visual
Guide
3

戦時 輸送船

大西洋
戦争編

ビジュアルガイド

岩重多四郎著

3



The visual guide of wartime merchant
marine; Battle of The Atlantic

3

大日本絵画



戦時輸送船 ビジュアルガイド 3

大西洋
戦争編

C	はじめに	4
	主要参考文献	6
O	艦船編	
n	連合軍	
t	豪華客船	8
e	大型客船	10
n	仮装巡洋艦	13
t	英海軍の揚陸戦艦艇	14
e	戦車揚陸艦	18
n	米海軍の揚陸戦艦艇	20
t	貨物輸送艦	22
	C3 型貨物船	24
	貨物船の量産	26
	リバティ型貨物船	28
	イギリスの給油艦	30
	T2 型タンカー	32
	T3 型タンカー	34
	CAM 船・MAC 船	36
	護衛空母	38



イラスト／高荷義之

防空船	40
Q シップ	42
各種母艦・工作艦	43
連合軍の主要艦艇	44
駆逐艦	48
スループ	52
コルヴェット	54
フリゲート	57
徴用漁船	60
その他小艦艇	62
コーストガード	64

枢軸軍

独海軍の主要艦艇	66
武装商船	68
ドイツの特務艦・敷設艦	70
封鎖突破船	72
ドイツの商船	74
射出機船	76
VII 型 U ボート	78
IX 型 U ボート	80

その他の U ボート	82
大戦後期の U ボート	84
計画 U ボート	86
イタリア潜水艦	88
マーキング	90
エース艦長	92
魚雷艇	94
(コラム) ノルマンディー上陸作戦	96

戦史編

船団制	98
初期の潜水艦戦	100
第一期黄金時代	102
護衛拡充	104
第二期黄金時代	106
転換期	108
決定期	110
ブンカー	112
東洋の U ボート	113
ドイツ水上艦艇戦史 1	114

ドイツ水上艦艇戦史 2	116
英戦艦の船団護衛	118
魚雷艇戦史	120
大西洋戦争の総括	122
ノルマンディー上陸作戦 (艦砲射撃)	124
(コラム) ドック型揚陸艦 「アシュランド」級の制作	126

工作用図面集

クィーン・メアリー	128
ラウルピンディ	129
グレンガイル	130
ジェレマイア・オブライエン	131
セベク	132
ピングイン	133
貨物船「エンパイア・モードレッド」 張線図	134
索引	135

C3型貨物船

アメリカの戦時造船の特徴は、リバティ船を大量生産しながら普通の規格の船も大量生産していた点にあるといえるだろう。護衛空母や攻撃輸送艦など、不可欠な戦力のベースとなった米海事委員会の輸送船建造の実態を調査。

米海軍の艦籍に編入された 海事委員会規格船

日本では戦前から軍が深く関与して商船隊の質的向上に取り組み、太平洋戦争の開始と相前後して優秀な商船が陸海軍に徴用され各種任務に就いた。ただし、米英と比べ造船能力のキャパシティが決定的に劣っていたため、開戦後は数的需要への対応だけで手一杯となり、戦前規格の優秀船はほとんど建造できなかった。これに対しアメリカは、リバティ型のような低規格船をそれ専用の造船所を新設して生産し、これとは別に在来中心の多くの造船施設が平時規格船を建造していた。こちらも第二次大戦開始後には相当数が軍事転用

され、戦時中にも積極的に在来型やその派生型が追加建造されており、日本とは逆に開戦後どんどん有力な船隊が新造補強されていく展開となった。

次ページの添付リストは、海事委員会規格船のうち客船と貨物船に関連する型式（リバティ型を除く）を抜粋し、米海軍への編入状況を示したものだ。これ以外にも米陸軍の使用船があるほか、英戦時運輸省へ引き渡されたものの一部に軍用としての特別改装を施されたものがある。民需船に含まれるものでも、大西洋航路をはじめとする海上交通路での損失はもちろん、マルタなど激戦区への輸送に投入されて失われた船もあったから、管理者が誰かはあくま

で帳簿上の仕分けで、役務の危険度とは必ずしも関連しない。

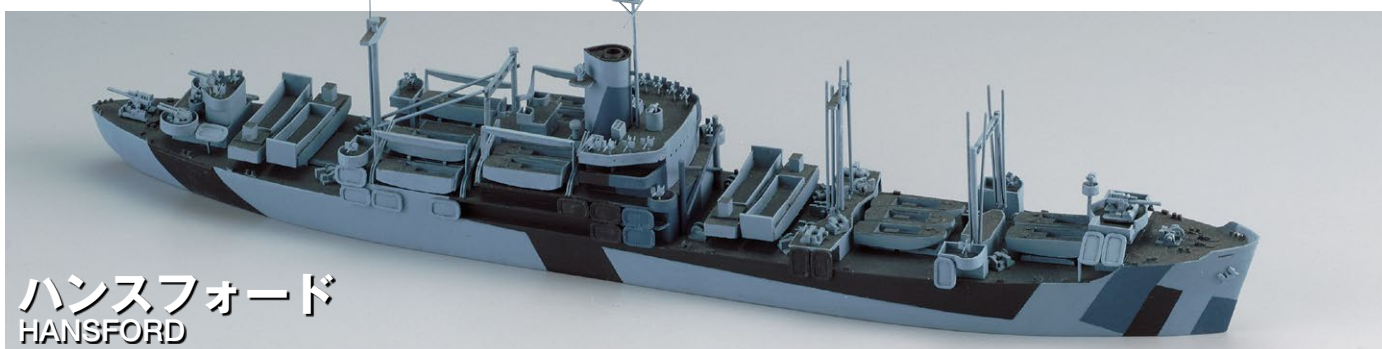
戦時中の攻撃輸送艦

初期の攻撃輸送艦のベースには、大正後期に建造された貨客船が多用されたが、船隊刷新計画の中でこれと同等の船にあたるC3-P&C(P&Cは貨客船)だけでは膨大な戦時需要を賄いきれず、一般貨物船の居住設備を拡充して対応する例が増えた。また、重構造のダビットで舟艇の搭載量と運用効率を増し、同様の機装がAKAにも用いられた。これはウエリン・マクラクラン式ダビットの一種で、1基につき最大3隻のLCVPを運用できるため、トリプル・ウエリン式またはマルチブ

ル・ウエリン式と呼ばれる。荷役設備の改善は、大戦全期を通してあまり進展がなかった日本の輸送船と比べ顕著だったといえるが、いずれにせよ戦後多くの船はこれらの設備をすべて撤去し、民間籍に戻っている。一方、APA・AKA専用デザインの「ジリアム」「アーテミス」級は、ターボ電気推進のユニット配置という民間使用に向かない機関構造を取っており、後付けの利用が難しい客主貨従の貨客船のようなスタイルもあって、民間転用は一切されなかった。

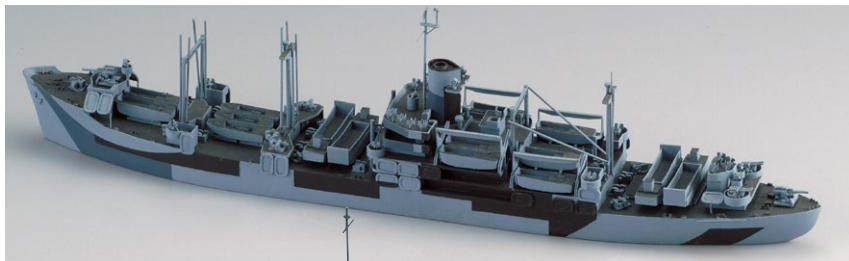
ヴィクトリー型貨物船と 「ハスケル」級攻撃輸送艦

リバティ型の生産過剰に伴い、高度な地域建造システムを利用しつつ

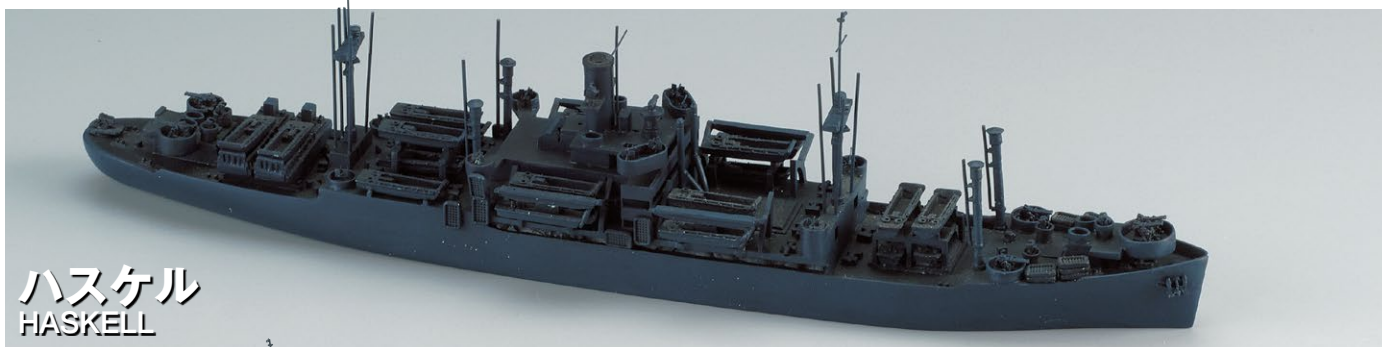


ハンスフォード
HANSFORD

ハンスフォード US Attack Transport APA106 HANSFORD, model length 214mm

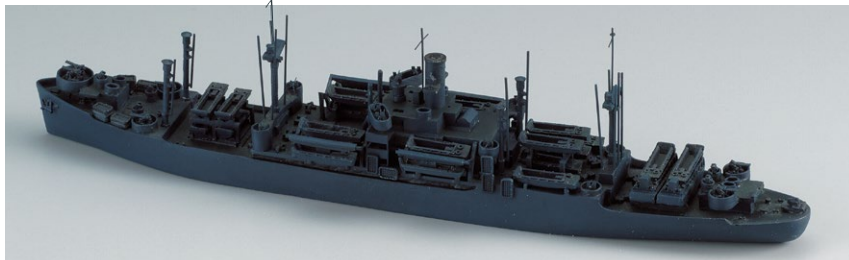


C3-S-A2型のAPA版「ベイフィールド」級の1艦。建造所と時期による違いのほか、揚陸指揮艦に準ずる設備を増設した艦があり、バリエーションは豊富。「ハンスフォード」は通常型ウェスタン・パイプ&スチール製後期艦に属する。作例は姉妹艦の戦後の図面をもとに戦時状態を自作。迷彩はメジャー32/3Dで、実艦では軽荷吃水まで施されているが、この状態になるとプロペラが水面上に出てしまう。同じ迷彩で満載吃水からブーッティングの黒にしている例もある。基本形状の問題を別とすれば、「ボーグ」級のキットの船体をベースに製作できる船の代表でもある。



ハスケル
HASKELL

ハスケル US Attack Transport APA117 HASKELL, model length 198mm



ヴィクトリー型貨物船のAPA仕様「ハスケル」級の1艦。ヴィクトリー船は1番船倉までのびた船首楼が特徴で、APAでは船橋後部の2・4番倉上に延長される。かなり窮屈な設計だったと言われるが、戦後も多数が使われた。偶然ながら1番艦の艦番号がAPA-117で姉妹艦の数も117。作例はルースキャノンのレジンキャストキット。かなり手のかかる商品だが、本級の市販キットははたぶんこれだけ。インターネットで図面も入手できる。

1隻あたりの質を向上させる目的で建造されたのがヴィクトリー型で、専用造船所はリバティ型から逐次転換した。機関をレシプロ2500馬力からタービン6000馬力に改めて航海速力を1.5倍とし、攻撃輸送艦「ハスケル」級として建造されたものはさらに8500馬力・17ノットまでパワーアップ、民需型にもこれが適用された。1隻試作のディーゼル船を加え、合計4種のサブタイプがある。

第二次大戦中の米海事委員会規格輸送船

型式名	建造所	機関	建造数	海軍使用数	該当艦
貨物船（C1）					
C1-A	Pennsylvania	D	46	2	AK-22(Fomalhout) AE-10(Sangay)
	Pusey&Jones	T	19	2	AGP-12,13(Acontinus級)
C1-B	Federal	T	5	1	AS-20(Otus)
	Consolidated	T	67	2	AP-172,174(Cape Johnson級) AK-98(Auriga) AH-6-8(Confort級)
	Bethlehem(S)	T	15		
	Western P&S		5		
	Seattle-Tacoma	D	5		
C1-S-AY1	Consolidated	T	13		
C1-M-AV1	Kaiser	D	22	16	AK-156-167,178-181(Alamosa級)
	Butler	D	40	14	AK-182-195(Alamosa級)
	Froemming	D	12	8	AK-168-175(Alamosa級)
	Globe	D	9	5	AK-197-201(Alamosa級)
	Smith	D	16	11	AK-205-215(Alamosa級)
	Consolidated	D	37		
	Pennsylvania	D	12		
	Jones	D	6		
	Southeastern	D	3		
貨物船（C2）					
C2	Federal	T	6	4	AK-42,43(Mercury, Jupiter) AKS-1,2(Castor, Pollux)
	Newport News	T	4	1	AF-10(Aldebaran)
	Sun	D	6	6	AK-18,23-25,28(Arcturus級) AF-11(Polaris)
	Tampa	D	4	3	AK-19(Procyon) AE-3,4(Lassen, Kilauea)
C2-T	Tampa	D	4	4	AK-20,21(Bellatrix, Electra) AE-5,6(Rainier, Shasta)
C2-N	Tampa	D	3	3	AE-8,9,13(Mauna Loa級)
C2-F	Federal	T	6	5	AK-53,55,56(Libra級) AKS-4(Pollux-2nd) AP-77(Thurston)
C2-G	Federal		2		
C2-S	Bethlehem(S)	T	6	1	AK-26(Alhena)
C2-SU	Sun	D	3		
C2-SU-R	Sun	D	5		
C2-S-A1	Bath	T	4		
C2-S-B1	Federal	T	32	44	"AK-64-69,AKA53-63, 88-100(Andromeda級), AP-94-96(Ormsby), AP-102,166-170,173(La Salle級) AGC-1-3,5(Appalachian級)"
	Moore	T	73		
	Moore	T	6		
C2-S-B1-R	Moore	T	6		
C2-S-E1	Gulf	T	26	6	AP-97-99,APA-94(Sumter級) AF-28,29(Hyades級)
C2-S1-A1	Moore	T	3	3	APH1-3(Tryon級)
C2-S-AJ1	North Carolina SB	T	64	19	AGC7-17(Mount McKinley級) AP-171(Storm King) AE-11,12,14-19(Mount Hood級)
C2-S-AJ2	North Carolina SB	T	5		
C2-S-AJ3	North Carolina SB	T	32	32	AKA64-87,101-108(Tolland級)
貨物船（C3）					
C3	Federal	T	6	2	AK-30(Hamur) AP-76(Anne Arundel)
	Ingalls	T	4	2	AV-9(Pocomoke) AK-31(Markab) AP-71(Lyon)
	Moore	T	4	3	AV-8(Tangier) AP-69,70(Elizabeth C. Stanton級)
	Sun	D	4	4	CVE-1(Long Island) BAVG-1(Archer) AS-13,14(Griffin級)
	Bethlehem(Q)	T	8	3	AK-27,41(Almaack級) AP-67(Dorothea L. Dix)
	Ingalls SB	T	3		
C3-IN P&C	Ingalls SB	T	3		
C3 P&C(Delta)	Bethlehem(S)	T	6	6	AP-40, 47, 58, 64, 65,105 (Crescent City級)
C3 P&C	Newport News	T	1	1	AP-37-39, 59, 60, 103, 104 (President Jackson級)
C3-A P&C	Newport News	T	6	6	
C3 P&C	Sun	D	4	4	BAVG2-5(Avenger級)
C3 P P&C	Ingalls	T	4	3	AP55-57(Arther Middleton級)
C3-S-A1	Ingalls	T	1	1	CVE-6(Battler)
	Seattle-Tacoma	T	37	37	BACV-6,CVE-9,11-13,16,18,20-25, 31-54(Bogue級)

Much of USN obtained merchant ships were also fitted with elaborate facility for landing operation, being classified to Attack Transport (APA) and Attach Cargo Ship (AKA). US Wartime shipbuilding finally developed fast ocean tramper Victory type utilizing Liberty type builders.

型式名	建造所	機関	建造数	海軍使用数	該当艦
C3-S-A2	Ingalls	T	50	47	AV-10(Chandeleur) AD-16(Cascade) AS-23-26(Aegir級) 7-CVE(Attacker級) AP78-93, APA92,93,95,96,99-102,104,106-116(Bayfield級)
	Western Pipe&Steel	T	33		
C3-S-A3	Bethlehem(S)	T	15	7	AP-100,101, APA-91,97,98,103,105(Windsor級)
C3-S-A4	Western P&S	T	2		
C3-S1-A3	Seattle-Tacoma	T	2	2	AP-48,49(Frederick Funston級)
C3-mod	Federal	T	2	1	AS-22(Euryale)
	Newport News	T	3	2	AR-9,12(Delta,Briaeus)
	Seattle-Tacoma	T	4	4	AV-14-17(Kenneth Whiting級)
貨物船（C4）					
C4-S-A1	Permanent #3	T	29	29	AP-130-158(General G.O.Squier級)
C4-S-B1	Sun	T	1		
C4-S-B2	Sun	T	14	6	AH-12-17(Heaven級)
C4-S-B3	Sun	T	3		
C4-S-A3	Kaiser	T	5		
貨物船（ヴィクトリー型）					
VC2-S-AP2	"Bethlehem(B) California Permanent#1,2"	T	272	10	AK-227-236(Boulder Victory級)
	VC2-S-AP3	"California Oregon Permanent#1"	T	141	
VC2-M-AP4	Bethlehem(B)	D	1		
VC2-S-AP5	"California Seattle-Tacoma Oregon Permanent#2"	T	117	117	APA-117-180,187-239(Haskell級)
	客船（P）				
P1-S2-L2	Consolidated	T	2	2	AP-2,18(Doyen級)
P2-S2-R2	Federal	T	11	11	AP-110-119,176 (General John Pope級)
P2-SE2-R1	Bethlehem(A)	T	7	7	AP-120-126(Admiral W.S.Benson級)
冷蔵船（R）					
R1-M-AV3	Pennsylvania	D	17	17	AF-30-39,41-47(Adria級)
R2-S-BV1	Moore	T	6		
R2-ST-AU1	Gulf	T	3		
特殊艦船（S・一部）					
S4-SE2-BD1	Consolidated	TE	32	32	APA-57-88(Gilliam級)
S4-SE2-BE1	Walsh-Kaiser	TE	32	32	AKA21-52(Artemis級)
S4-S2-BB3	Kaiser	T	50	50	CVE-55-104(Casablanca級)

注

1 建造所は下記の通り。
Bath: Bath Iron Works, Bath, Maine
Bethlehem（A）: Bethlehem-Alameda, Alameda, California
Bethlehem（B）: Bethlehem-Fairfield, Baltimore, Maryland
Bethlehem（Q）: Bethlehem Steel, Quincy, Massachusetts
Bethlehem（S）: Bethlehem Steel, Sparrows Point, Maryland
Butler: Butler SB, Superior Wisconsin
California: California Shipbuilding, Wilmington, California
Consolidated: Consolidated Steel, Wilmington, California
Federal: Federal SB&DD, Kearny, New Jersey
Froemming: Froemming Bros. Milwaukee, Wisconsin
Globe: Globe SB, Superior, Wisconsin
Gulf: Gulf SB, Chickasaw, Alabama
Ingalls: Ingalls SB, Pascagoula, Mississippi
Jones: Jones Construction, Brunswick, Georgia
Kaiser: Kaiser, Richmond, California
Moore: Moore DD, Oakland, California
Newport News: Newport News SB&DD, Newport News, Virginia
North Carolina SB: North Carolina SB, Wilmington, North Carolina
Oregon: Oregon Shipbuilding, Portland, Oregon
Pennsylvania: Pennsylvania SY, Beaumont, Texas
Permanent #1-3: Permanent（Kaiser）No.1-3, Richmond, California
Seattle-Tacoma: Seattle-Tacoma SB（Todd-Pacific SY）, Tacoma, Washington
Smith: Smith SB, Leathem D. Sturgeon Bay,

Wisconsin
Southeastern: Southeastern SB, Savannah, Georgia
Sun: Sun SB&DD, Chester, Pennsylvania
Walsh-Kaiser: Walsh-Kaiser, Providence, Rhode Island
Western P&S: Western Pipe&Steel, San Francisco, California
2 機関はT：タービン、D：ディーゼル、TE：ディーゼル電気推進。一部不明
3 建造数は原則として終戦まで。ただし1945年8月後半（「ヴィクトリー」級はそれ以後）を含む場合あり。
4 艦種符号は以下の通り。在役中の他艦種への転籍は省略している。
AD：駆逐艦母艦
AE：給兵艦
AF：給糧艦
AGC：揚陸指揮艦
AGP：魚雷艇母艦
AH：病院船
AK：貨物輸送艦
AKA：攻撃貨物輸送艦
AKS：雑貨補給艦
AP：輸送艦
APA：攻撃輸送艦
APH：後送輸送艦
AR：工作艦
AS：潜水母艦
AV：水上機母艦
CVE：護衛空母（英海軍向けは時期によりBAVG、BACV、CVE）
5 リバティ型の生産数と海軍の使用状況はP28を参照のこと。
6 建造数は「C2型戦時173、C3型総数465」や「C2型 戦 時294、 総 数328、C3型 総 数242」といった内容のかけ離れた資料が見られる。

T2型タンカー

日本での知名度は決して高くないが、第二次大戦中の米国主力量産タンカーであるT2型もまた、リバティ船と並び称されてもおかしくない戦時造船史上の主役だった。軍用前提のデザインと粗製乱造の悪評というリバティ船以上の両極端な素性にも注目。

T2型タンカー

第一次大戦特需で大量建造した商船を用いていたアメリカの商船隊は、1930年代中期には丸ごと老朽化の状態となって国際競争力が著しく低下した。情勢挽回のため1936年に海運法が制定され、海事委員会（Maritime Commission）による造船管理が開始。その主目的の一つに戦時の軍用船予備勢力の整備もあったが、1939年、第二次大戦開始を受けて「国防タンカー」の名のもとに登場したのがT2型だった。設計自体はソコニー・バキュームオイル社の「モービルフェル」級を手直したもので、実質的な日本の川崎型の対抗馬で一足先に建造が始まっていたT3-S2-A1型（「シマロン」級）より一回り小さく低速ながら、タービン12000馬力で16ノットを出し、一般の民間デザインよりかなり高性能だった。着工された「コルシカーナ」以下6隻は太平洋戦争開始を受けて直ちに米海軍が取得の上「ケネベック」級として就役。これより少し船体が長く同一出力で計画速度が少し高いキーストン・タンクシップ社の「エーケー」級5隻もT2-A型として追加指定され、やはり米海軍「マタポニ」級となった。T2という形式名は単一タイプの船を示すものではなく、海事委員会が助成対象の軍用適格デザインとして認定したタンカーの寸法カテゴリーを意味する。前記2タイプの正式名称はT2-SOとT2-A-MC-Kだが、後半の命名基準はわかりづらく、アメリカの資料でも省略されることが多い。しかしいずれにせよ、T2の名称が世界の造船史に残ることとなったのは、ひとえに

T2系給油艦一覧

形式	全長	機関	艦名
T2-SO (6)	501' -5" 152.8m	T12000 16kn	AO-36 Kennebec, AO-37 Merrimack, AO-38 Winooski AO-39 Kankakee, AO-40 Lackawanna, AO-48 Neosho(II)
T2-A-MC-K (5)	520' 158.5m	T12000 17.5kn	AO-41 Mattaponi, AO-42 Monongahela, AO-43 Tappahannock, AO-44 Paxtent, AO-47 Neches(II)
T2-SE-A1 (11+5)	523' -6" 159.6m	TE6000 15kn	AO-49 Suamico, AO-50 Tallulah, AO-65 Pecos(II), AO-67 Cache, AO-73 Millicoma, AO-74 Saranac, AO-75 Saugatuck, AO-76 Schuykill, AO-77 Cossatot, AO-78 Chepachet, AO-79 Cowanesque, AO-138-142
T2-SE-A2 (13+24) T2-SE-A3 (1+3)	523' -6" 159.6m	TE10000 16kn	AO-80 Escambia, AO-81 Kennebago, AO-82 Cahaba, AO-83 Mascoma, AO-84 Ocklawaha, AO-85 Pamanset, AO-86 Ponaganset, AO-87 Sebec, AO-88 Tomahawk, AO-89 Pasig, AO-93 Soubarissen, AO-94 Anacostia, AO-95 Caney, AO-96 Tamalpai, AO-101 Cohocton (注1), AO-111-137 (AO-91, 92 (注2))
T3-S-A1 (5)	501' -8" 152.9m	T8000	AO-68 Chiwawa, AO-69 Enoree, AO-70 Escalante, AO-71 Neshanic, AO-72 Niobrara

形式名のうち+は戦後取得の民間仕様を示し、艦名を省略している。

注1 AO-101 (Cohocton)は給油艦仕様で唯一戦後竣工。

注2 AO-91 (Pasig)・92 (Ataban)は給水船に転籍。

次のT2-SE-A1型の存在ゆえだ。これもT2-A型を建造したサン造船がエッソ向けにデザインしたものに委員会の指定がついたもので、6000馬力15ノットと性能はやや低かったが、機関部にターボ電気推進を採用したのが特徴。商船に疎くても勘のいい方ならお気づきの通り、護衛駆逐艦の建造経緯と同じで、減速歯車の生産に難があったギアードタービンよりこちらのほうがアメリカでは作りやすかったのだ。軍用としては不満でも、民需用としては水準以上の速度で全く問題ない。リバティ型と同様の全溶接ブロック工法を採用のうえ、4造船所で量産され、1942年3月サン造船の「エッソ・ゲティスバーグ」を皮切りに合計481隻が竣工。EC2-S-C1型（リバティ型）に次ぐ単一タイプ生産数を記録した。このうちサン造船製の11隻が海軍「スアミコ」級となったが、これとは別にマリンシップ社が同一船体に出力10000馬力の機関を搭載した改良デザインを建造、T2-SE-A2型40隻と追加

発注の小改正版A3型4隻を竣工させた。A2型15隻が海軍「エスカンビア」級となり、A3型は当初4隻とも正規給油艦として艦番号を与えられたが、終戦直後に竣工した「コホクトン」以外いったんキャンセルの上、戦後「ミッション・サンタ・マリア」を除くA2とA3の残余すべてが海軍に引き取られて改めて「ミッション・ブエナベンチュラ」級を形成した。戦後ソ連から返還されたレンドリース船などA1型5隻も給油艦籍に入れられており、こちらは「スアミコ」級の追加分とみなされている。他のT2型も海事委員会籍・民間配員で主に海軍艦艇の後方燃料補給任務に従事。これらを含めた総建造数は536隻、日本の2A型貨物船の4倍半、直接の対応形式である2TL型の11倍以上に相当する。リバティ船があまりに多いため、他はたいしたことないのだろうなどと思ったらとんでもない油断だ。

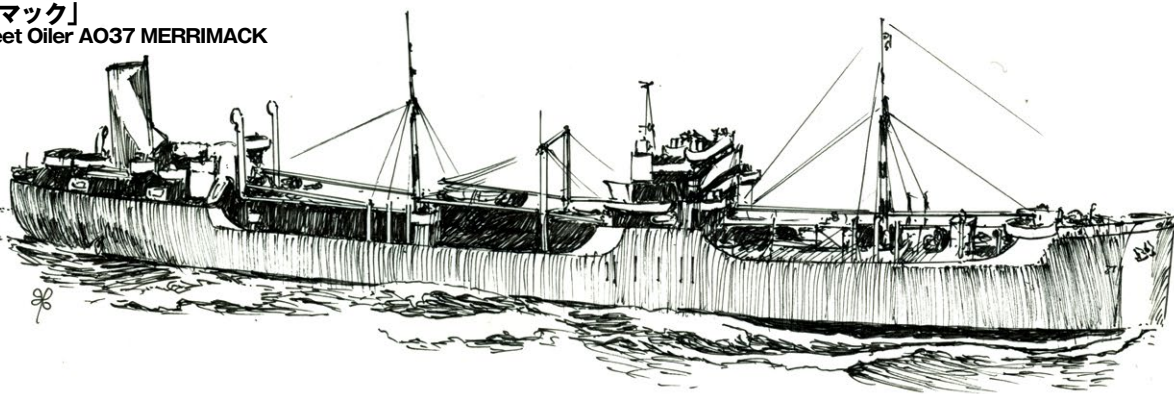
このグループは大量生産に加え、カイザー造船の1番船「スケネク

タディー」が竣工直後に造船所で折損事故を起こしたことが広く知られ、リバティ型以上に粗製乱造のイメージを持たれたようだが、戦後も長らく海運界で活躍。一般貨物船やコンテナ船など時として原形をほぼどめないほどの改造を受けた例も少ない。

なお、どういうわけか規格の上ではT2に分類されるはずなのにT3の名称をつけられたグループ（T3-S-A1）があり、建造21隻（+4隻中止）中5隻が「チワワ」級として艦籍に入った。

In interwar era much more than a half of world oil production was shared by US. Naturally tanker also shared much part of number in maritime contract program. Category T2, 450-500ft waterline, was selected as main strength that finally achieved more than 500 ships and became well-known in post-war oil shipping.

「メリマック」
US Fleet Oiler AO37 MERRIMACK

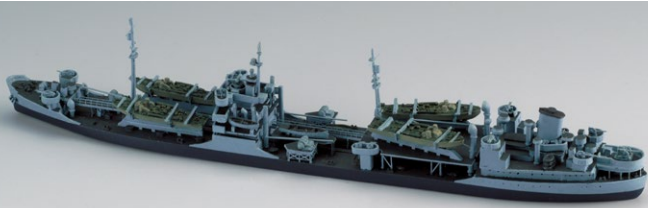


ベスレヘム鉄鋼造船で建造中の「キャッド」を海軍が取得したもので、1942年2月竣工。単にT2という本来はこの「ケネベック」級6隻を指すが、逆に海運関係者などは標準量産タイプのSE-A1～3型のことと認識している場合もあるようなので

で注意。レイアウトは後の船とほぼ同じながら「スアミコ」級より全長が10mほど短く、煙突が大きいこともあって後ろがかなり詰まりに見える。イラストの元写真は1943年10月撮影のキャプションがあるものの、当時のどの様式に含まれるの

かわからない独特の迷彩が目立つ。この名前では南北戦争で南軍が使った装甲艦「ヴァージニア」の母体となったフリゲートが有名。

コサトット COSSATOT AO77



コサトット US Fleet Oiler AO77 COSSATOT, model length 228mm

米海軍に編入された「スアミコ」級のひとつ。コサトット川はアーカンソー州南西にあり、いわゆる激流下りで知られ「頭蓋骨も砕ける川」という意味なのだとか。日本風に意訳すると「ババチョップ」。作例はアメリカのメーカー・ルースキャノンのレジンキャストキット（「コワネスク」とのコンバーチブル）。積荷のPTボートはキット付属のもので、他に手すりやデリックワイヤーのエッチングパーツもあるが、ディテールの癖が強く品質的にもうまくまとめるのはかなり難しい。寸法は商品段階でちゃんと本来の値が出ている。

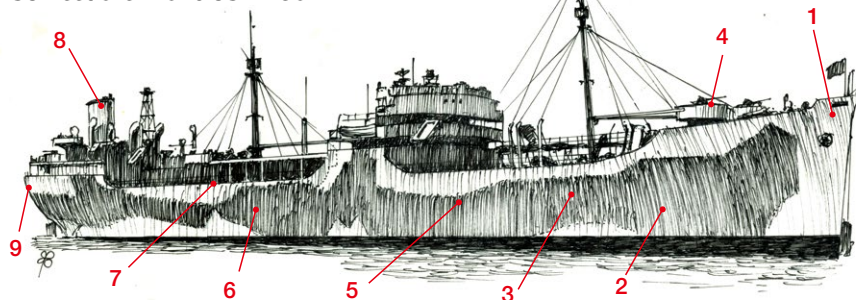
セベク SEBEC AO87



セベク US Fleet Oiler AO87 SEBEC, model length 228mm

「スアミコ」級の機関強化型「エスカンピア」級の1隻で、最終艦装をカイザー社で実施の上1944年3月竣工。レイテ沖海戦直前の護衛空母「キトカン・ベイ」に給油中の映像が知られている。セベク川はメイン州中部。作例はA1民間型の図面に手を加えて自作しており、若干基本形状のバランスが「コサトット」と異なるものの、本来は共通。迷彩パターンはメジャー 32/3AO。ルースキャノンのキットは満船噴水なので、この迷彩はそのままでは再現できない。フルワークなどの下面のカウンターシェイドが甲板室の上縁付近にも塗られている点は反映しているが、水平面のオーシャングレイ部分は省略している。

「スアミコ」 US Fleet Oiler AO49 SUAMICO



1 船首 T2型の船体は上甲板レベルでは船首尾通してシアーがなく、船首楼と船尾楼の上だけに傾斜がつけられている。船首下部はバルバスパウで、必ずしも簡易化一辺倒でもない。なお、海事委員会の規定によるカテゴリ-T2は水線長450～500ftだが、T2-SE-A1型は垂線間長が500ftを超えており、軽貨艙水进行分类基準としていたことがわかる。ただしこの類別はかなり曖昧で、「チワワ」級のように手続上のミスで全長の数値からT3にしまったのではと思われる例もある。

2 船体 T2-SE-A1型の建造はリバティ型と同様の広域造船システムに則っており、4箇所の建造所はサン造船（198隻）がベンシルヴァニア州チェスター、アラバマ乾船渠造船（102隻）がアラバマ州モービル、カイザー造船（147隻）がオレゴン州ポートランド、マリンシップ社（34隻）がカリフォルニア州サウスサートとア

メリカの4隅に割り振ってあった。このうち戦前からのタンカー屋であるサン造船以外は、同一工場が近隣でリバティ型も手掛けている。マリンシップ社はA2型担当で途中からA1も作るようになり、A1の1番船竣工は44年9月と遅い。

3 貨物倉 船首楼の直後に小型の貨物倉。当時の世界的標準。キャットウォークが首尾線のすぐ左側にあって倉口上をまたいでおり、この部分は荷役時は丸ごと蝶番で後方に跳ね上げる。給油艦型の整備中の写真を見ると、ハッチも一枚板で船首側に跳ね上げている。

4 武装 T2系の初期標準武装は5インチ砲1、3インチ砲4、20mm機銃12門で、その後40mm機銃4門を追加、大戦末期にはある程度の構成変更も実施された模様。戦後取得艦は概ね民間仕様のまま。

5 貨物槽 最前部のみ2列、以下3列×8の26倉。3列部分の幅

は同一ではなく、ほぼ1:2:1となっている。リバティ船と同じブロック式全溶接工法で、「スケネクタディー」の他、給油艦「ボナガンセット」も戦後保留中に折損。ス号の事例では町中に聞こえるほどの音で文字通りバカンと割れたらしく、断裂箇所は船によって異なるが、いずれもVの字に折れて沈むのではなく、ハの字に折れて普通に浮いているのが印象的。

6 迷彩 「スアミコ」の就役はガダルカナル戦開始直後の1942年8月10日で、当時の迷彩は公式にはメジャー 12改となるが、幾何学的な欺瞞模様を含むなど本来の塗装様式とはかけ離れたもの。

7 上甲板 シアーはないがキャンバーはある。給油艦型は貨油槽の上にスーパーデッキ（梁柱だけで支えた高床甲板）を設け、ウィンチもほとんどこのレベルに置いて多少の悪天候でも給油作業に支障をきたさないよう配慮していた他、必要に応じ魚雷艇ぐらいの大型貨物の運搬も可能。艦籍にないものでも航空機輸送架台（マシャノデッキングと呼ばれた）を設けたものがある。なお、本来の「スアミコ」級は全てサン造船製から抽出されているが、第一次・第二次取得分の4隻と第三次取得分の7隻は船橋直後のデリックポストの位置で大別できる。第四次（戦後）取得分にはカイザー製とアラバマ製も含まれる。

8 機関部 形式名のSEがターボ電気推進を示し、護衛駆逐艦のTEと同じ意味（タービンとスチームの違い）なのでできれば共通化してほしかったところ。「エスカンピア」級は機関出力は上だが煙突は小さい。

9 艦名 米海軍の給油艦は液体つながりで河川名をあてており、先住民の呼び名に由来する特徴的な艦名が多い。スアミコ川はミシガン湖にそそぐウィスコンシン州の川。戦後海軍が取得したT2系はいずれも民間名のまま。A2・A3の「ミッション」は宣教師会のことと、いわゆるミッションスクールなどと同系の用語。

アメリカ製フリゲート:
「植民地」級

「キャプテン」級とは別に、「河川」級の設計を一部修整した準姉妹艦も建造された。「キャプテン」級とは逆の経緯で、第二次大戦参戦のため護衛艦不足を補う手段として米側が急速導入したもので、ギブス&コックス社が再設計して船体の溶接構造から武装まで米側規格に一新しているものの、機関出力や速力・航続距離はほぼ「河川」級と同じだった。計画数100隻に対し4隻中止、竣工艦のうちロードアイランド州プロヴィデンスのウォルシュ・カイザー社で建造された21隻全部を英側が引き取って、「コロニー（植民地）」級とした。つまり巡洋艦「フィジー」級と同じなので、慣れないうちは混同する恐れがある。1943年10月から竣工、新造当初は水管缶のトラブルが頻発し実戦運用まで数か月かかる例もあったようだが、それが落ち着くことと不満は聞かれなくなった。その反面、米海軍の本級に対する評価は「護衛駆逐艦より無駄に大きく低速」というそっけないもので、英側からは「アメリカ人は船を知らないから護衛駆逐艦の航洋性のひどさを気にしないのだ」と毒づく声も聞かれるが、いずれにせよ米海軍の就役艦はすべてコーストガードから配員されており、気象観測の任務に回された例もあった。本級の就役に先立って英側から「河川」級10隻を供与する段取りだったが、こちらも実際は2隻にとどまった。

戦時型フリゲートの最終形態:
「ロッホ」「湾」級

第二次大戦中期の代表的対潜攻撃兵器であるヘッジホッグは、護衛艦にとって従来の側方・後方攻撃型爆雷戦術ではどうしても避けられないソナーの失探時間を解消する点では有効だったが、触発信管のため「当たらなければどうということはない」兵器でもあった。新たに開発された三連装前投式発射機スキッドは、深度調定式信管の爆雷が使用可能となっただけでなく、一般的な爆雷投射機の3倍近い270mの射程によってソナーの探知精度が充分得られる範囲で攻撃可能、しかも弾体は普通の爆雷の7倍近い秒速13.4mに達する沈降速度で目標に到達するため、飛躍的に威力が向上すると期待された。そこで今後のフリゲートはこのスキッドを2基搭載し、あわせて量産向きの簡易設計とブロック工法を導入して急速な戦力拡充を狙うことになった。若干寸法が増した程度で基本形状は「河川」級と変わらず、機関部も同一でタービン艦2隻の比較試験も否定的な結論が出されており、事実上スキッドだけが売りといっている。級名のlochはスコットランドの典型的な地形を示すが、発音、意味とも日本語にない厄介な単語。すなわちlochのchは擦過音で、いちおう本稿ではロッホとしたが厳密にはホでもクでもフでもない。意味は「氷食性の谷（U字谷）に水が入ったもの」で、海水・淡水の区別はされず、英艦隊が集まる入江も首の長い爬虫類

が住む湖もロッホと呼ぶ。

1番艦「ロッホ・フェーダ」は1943年6月竣工、翌年初めまでに110隻あまりが発注された。ところが起工準備中に大西洋の戦況が好転し、大陸侵攻もあって造船所の工員の徴兵が増え、量・質とも低下。設備も大戦間の不況の影響で老朽化しており、大規模な溶接工作ができず、中小造船所にブロック構造を分担製作させる方式も個人主義の国民性に合わず不評を買ったという。新しい兵器や機装類に必要な電気関係の工事の遅れも深刻で、結果として所要工期は「河川」級の7～24か月に7～17か月、最短記録ではむしろ劣る有様で、簡易化の効果はほとんどなかった。計画されていたカナダでの建造も中止され、「河川」級が継続建造された。大戦末期には対日戦へのシフトに備えて26隻が対空型へ仕様変更されることになり、10.2cm連装高角砲を積んで「ベイ（湾）」級へ改名。同様の武装はオーストラリア製「河川」級の一部ですで見られたものだが、英本國で本格導入されたことで対潜護衛艦だった第二次大戦型フリゲートの語義が崩れている。他にも小艦艇母艦や遠隔地部隊のヨット、測量艦といった他任務への転用が相次ぎ、半数は終戦のためキャンセルされ、「ロッホ」級として完成したのは26隻（+戦後2隻）にとどまる。うち1944年中の竣工は17隻で、戦局への寄与は微々たるものだった。「湾」級も第二次大戦終結までの竣工数は7隻で、実戦には間に合わなかった。

第二次大戦型フリゲートは、急速大量生産兵器という宿命のもとで出現した専門的護衛艦艇の代表種であり、建造した英米それぞれの用兵思想や技術レベルが外見・性能・建造経緯といったあらゆる部分に色濃く反映されている。英海軍は経験に裏打ちされた現実的でツボをおさえた兵器を要求したのに対し、米海軍は対空能力との両立の必要性もあって重武装の傾向があり、ややスペック面で贅沢な艦を欲しがった。しかし造船サイドは豊富な物的・人的資源を投入し、新しい技術を積極的に活用して力技で要求を満たす工業力を発揮した。逆にイギリスの造船は、資源環境に劣るうえ常に保守性を優先し、戦時需要を改革のステップとする弾力性にも欠けていた。イギリスにとってフリゲートは戦後の造船界の没落を予期させる存在となった。一方、潜水艦の発達は更なる護衛艦艇の高性能化を強要し、その主軸となるべきフリゲートも戦後は性能と予算の板挟みに苦しめられることとなる。

Frigate, initially two-shafts corvette was designed to recover shortage of corvette as long-range ocean escort. Although most of them were commissioned after critical period they settled superior in convoy escort battle.

第二次大戦の英海軍フリゲート

級名	就役数	排水量t	速力kn	主兵装	備考	注
'River'	133	1370	20	2-10.2	バリエーションあり	就役数は戦時中を示す。
'Colony'	21	1509	20	3-76		
'Loch'	26	1435	20.5	1-102		
'Bay'	7	1580	20	4-102		

「河川」級フリゲートの発注と所属国

発注	RN	RCN	RAN	RIN	FFR	USN
41.2-43.2	55	62	6	1	6	2

国籍はRN:イギリス、RCN:カナダ、RAN:オーストラリア、RIN:インド、FFR:フランス、USN:アメリカ、Ne:オランダ



スウェイル

British Frigate SWALE, model length 131mm

数少ない1942年製フリゲートの一つ。「ロサー」と同じくスミスドックで建造。へたな駆逐艦よりずっと大柄な割に砲兵装が弱く、速力も20ノットしか出ないため物足りない印象も受けるが、やは

り対潜兵装と航続距離に優れ、「トライバル」級駆逐艦の半額以下で建造できた。作例はシールズモデルズのインジェクションプラスチェックキットで、武装配置以外ほぼキットのまま。どうやら終売ら

しいが、基本形状、ディテールともやや物足りないのでできれば代替品の発売が望ましい。



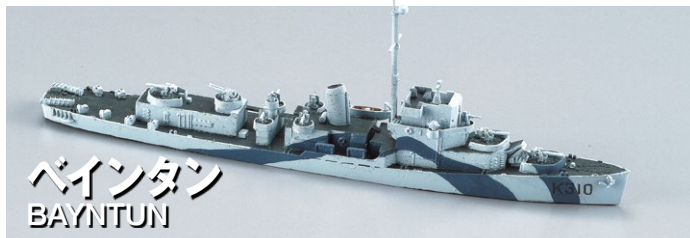
ヘルムスデイル

British Frigate HELMSDALE, model length 131mm

「河川」級のうち6隻だけ建造された、バーソンス式ギアードタービン+水管缶装備艦。これらの完成は1943～44年で急いではおらず、出力1000馬力増加に対し計画速力の向上は0.5ノットとされ

た。数値の是非は別としても、当時のイギリスが造船体制や船員教育をレシプロから転換するのを嫌っていた事情もあり、近代化のチャンスとみていなかったのは確か。作例もシールズモデルズで、機

関の違いは外形に関係しないが、それ以外で本艦は爆雷投射機が通常の半分となっており、予備爆雷ラックを置いている。



ベインタン BAYNTUN

ベインタン

British Frigate BAYNTUN, model length 126mm

「キャプテン」級DE型の1番艦。ポストン海軍工廠で仮番号BDE1として着工、1943年1月竣工。45年2月には姉妹艦と「ロッホ」級との混成グループでたて続けに3隻のUボートを撃沈した。英海軍の要求仕様により最初にデザインされたタイプで、他より船体が短

い。ビットロードが艦船のインジェクションキットを手掛けるようになって最初の目玉商品の一つが米海軍護衛駆逐艦で、「キャノン」級と外見同一の「エドソル」級を含めば長船体型は事実上全タイプが発売されたが、短船体の「エヴァーツ」級だけは実現せず、改造

で調達する必要がある。竣工時の塗装は建造所で英海軍式の模様を米海軍の塗料で描いており、色はシーブルーとベイルグレイとする資料があるが、写真からはそれほど明度差があるように見えないので前者をオーシャングレイにした。



ビッカートン BICKERTON

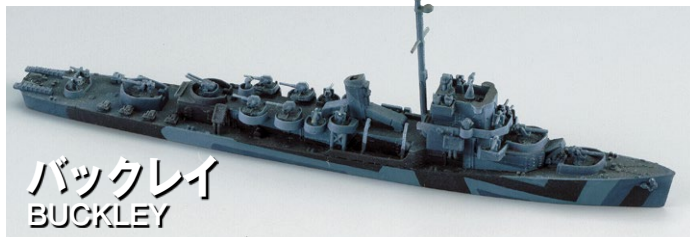
ビッカートン

British Frigate BICKERTON, model length 133mm

「キャプテン」級TE型の1隻で、ドナルド・マッキンタイアが最後に艦長として乗り組んだ船。1943年10月竣工、44年6月「U269」を撃沈したが、8月バレンツ海で「U354」の雷撃を受け、駆逐艦「ヴィジラント」の魚雷により処分された。基本的にはビットロード

の「バックレイ」級そのまま、魚雷発射管以外にも機銃や爆雷投射機など未装備の艦装が多い。ただし就役後の追加工事で2番砲にシールドを追加し照明弾ランチャーを装備。また、なぜか煙突横のポートが右舷から左舷に入れかわり、厳密にはポートの種類も変わ

っていた。マスト頂部の対空レーダーもHF/DFに変更。竣工時の塗装は「ベインタン」と共通で、その後塗り直して白とB55の英軍式になったという。模型のコレクションに少ない手数で変化を持たせたい方にはお勧めのアイテム。



バックレイ BUCKLEY

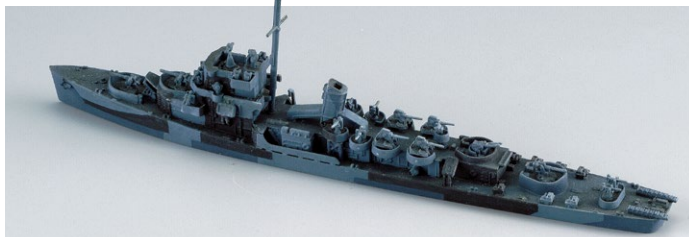
バックレイ

US Escort Destroyer BUCKLEY, model length 133mm

「ビッカートン」の米海軍版TE型の1番艦。米海軍向けはすべて護衛駆逐艦に分類され、長船体型は原則として魚雷発射管を搭載したが、のちに撤去のうえ機銃を増備した例も多い。「バックレイ」級は缶室と機関室を両舷で分けて前後に並べたため、煙突基部が前

後に広がっているのが特徴。また、映画「眼下の敵」に登場したことで知名度が高い。映画の架空艦「ヘインズ (DE181)」を演じたのは「ホワイトハースト (DE634)」の内容は1対1の遭遇戦で全体にシンプルな構成だが、英独を善悪とせず人間ドラマに徹したこと

で色あせない名画になったのだろう。「バックレイ」も体当たりで「U66」を撃沈している。



アンティグア ANTIGUA

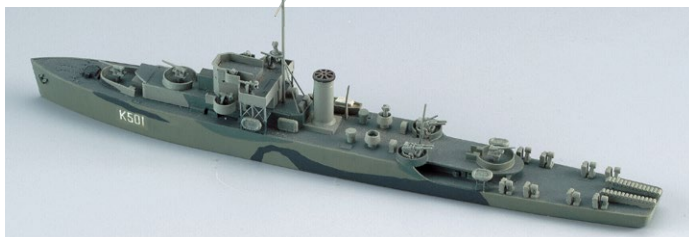
アンティグア

British Frigate ANTIGUA, model length 132.5mm

「河川」級の米海軍版「タコマ」級の英海軍供与艦「植民地」級。海事委員会の型式番号S2—S2—AQ1を持つ。当初はコルヴェットと同じ砲艦 (PG) に分類されていたが、間もなくPFとして独立したため、PGには就役総数より大きな番号欠落が発生した。英艦

はいくらかの戦果を挙げており、日本でも海上自衛隊創設時の主力としてなじみ深い、アメリカの評価は劣悪で厄介払い同然だったらしく、米艦は戦後大半が外国へ供与、もともと建造時の手際が多かった英艦は返還後ほとんど使われず早期処分された。作例もシ

ールズモデルズ「河川」級の改造。新造時はメジャー 22で引渡しの直後に塗り替えられた。筆者が英海軍塗色の基準を決める前に作ったので、作例の色味は参考にならない。



ロッホ・キリン LOCH KILLIN

ロッホ・キリン

British Frigate LOCH KILLIN, model length 134mm

「ロッホ」級の竣工2番艦。発注はかなり後で、建造所もほとんど軍艦をやらないバーティスランド造船だったが、駆逐艦メーカーでもあるジョン・ブラウンが手掛けた1番艦「ロッホ・フェダ」より短い工期で2日遅れの1944年4月12日完成、第2護衛グループに加わり7月には初戦果を記録。直前に急逝したフレデリック・ウ

ォーカーへのはなむけとなったのは、ベーター・クレマーからハンス・フィードラーへ艦長が交替したばかりの「U333」だった。翌月と終戦直前にも戦果をあげている。外見はほぼ「河川」級と同じで、武装やマストなどの仕様変更程度。英海軍期待の精鋭フリゲートで、設計簡易化の様子が日本の海防艦と似ているのもモデラー

に好まれそうな要素だが、キットはなく、入手した図面も不正確なものばかりで、写真を頼りに自作した。マスト上部のレーダーが本来の276型ではなく272型なのが極初期艦の特徴。主砲のシールドはO級駆逐艦と同じもので作例もタミヤの部品だが、本級のものを高角砲とする資料はなかった。



武装商船

武装した商船による通商破壊は一般水上艦艇よりコストパフォーマンスに優れた戦術であり、兩次大戦で最も有効に活用したのがドイツ海軍だった。ある意味、我々が思い浮かべるステレオタイプの海賊的生活に最も近い史実事例かもしれない。

近代戦と海賊

海賊船と問われてたいていの人か思い浮かべるのは、巨大な帆を張り舷側に大砲を並べた太短い帆船に多数の悪党（そうでない場合もあるような）が乗り込んで大洋を気の向くままに航海する絵ではないだろうか。しかし、歴史上正統的な海賊はむしろ現在のソマリア海賊のようなスタイルで、沿岸の島影あたりに根拠を張って小舟で通りかかった大型貨物船に取り付けて略奪行為を働く場合が多い。外洋を長期間行動できる各種物資の搭載量、発見した獲物を確実に捕捉できる速力、暴力行為の実力手段である武装を備える高次元の船（つまり一般商船とは異なる一種の戦闘艦艇）を獲得し、あるいは略奪品を換金して投資を償還し海賊稼業を回すためには、結局それなりの社会構造的な後ろ盾が必要であって、けだし海軍と海賊の線引きが難しくなる一因となっている。時として海賊行為は通商破壊作戦という国家間抗争の重要なカードとなり、20世紀の世界大戦では正規軍による壮絶な海賊合戦が展開された。被害者目線からすればあくまでそういう話だ。このあたりニュアンスの認識にずれが生じるのは、たぶん兩次大戦の通商破壊作戦の大部分が潜水艦による撃沈戦術だったためで、いずれの大戦でも前半には水上艦艇（稀に潜水艦）による拿捕戦術もとられていた点を忘れるわけにはいかない。

水上艦艇を用いた通商破壊作戦には、ドイツの戦艦「ビスマルク」のような手加減なしの力技もないではないが、費用対効果の面を考えると必ずしもそうであるべき必要はない。このジャンルに関しては守る側のほうが圧倒的に不利だ。偽装した民間船によるゲリラ戦術でも、やられる側は対応に苦慮させられる。近代艦船の性能的分化と格差を考えると、偽装商船は有力な敵に捕捉撃沈される確率も高いのだが、それでも現実的に、それは第二次大戦前期まで十分な成果を得ることができた。太平洋戦争では日本海軍も特設巡洋艦による通商破壊作戦を実施しているが、兩次大戦における展開規模と実績においてドイツ海軍の比ではなかった。

ドイツ海軍は第一次大戦開始早々から仮装巡洋艦による通商破壊作戦を開始したが、事前に準備していた大型客船改装艦は高速ではあるものの、目立ちすぎて怪しまれやすいという難点が指摘され、燃料消費

も多く、思ったほど活躍できないまま石炭を使い果たして中立国へ遁入～抑留というパターンが多かった。1915年秋、テオドル・ヴォルフという将校が偽装商船による通商破壊戦術を研究確立し、第二段階の作戦が開始された。この時期の戦力は、充分な武装を施していても仮装巡洋艦という名称は与えられておらず、単に通商破壊艦ないし武装商船と呼ばれている。水上機の運用もこの時期から始まったが、その一方で兩次大戦唯一の通商破壊用帆船「ゼアドラー」も投入されている。これを含めた総数は15隻、戦果は103隻・36万トンだった。

第二次大戦のドイツ仮装巡洋艦

第二次大戦開始の段階ではドイツ海軍は仮装巡洋艦作戦を準備しておらず、第一次大戦の時のように開戦当月から行動開始した船はない。しかし改装工事は1939年春から始まっており、1940年3月以降順次出撃した。改装されたのは合計10隻で、1隻が工事中止、他にも計画のみで実現しなかったものがあつた。多少の波はあるものの、43年1月まで散発的に出撃し、「トール」「コメート」の2隻が2回、他は1回。

第一次大戦時の作戦で最大のネックとなったのは燃料問題であり、当時の商船の通則だったレシプロ石炭焚きでは行動距離が限られ、まだ外航の帆走商船も残っていたからこそ「ゼアドラー」だったわけだが、第二次大戦ではディーゼル機関による航続距離の飛躍的延長が可能となり、新たな仮装巡洋艦はすべてディーゼル貨物船が選ばれた。また、第一次大戦時と違って外洋に張り巡らされた補給システムが機能しており、サポートのための補給艦が各所に展開し、仮装巡洋艦はあくまで多くのユニットの中の攻撃担当者に過ぎなかったと考えることもできる。長いものでは1回の作戦行動期間が1年半以上に達し、地球を一回りした場合もあった。一方、仮装巡洋艦自体もUボートへの補給艦として用いられることがあり、「アトランティス」はこの任務で尻尾を出して敵に発見撃沈された。

選ばれた船は総トン数で3000～7000トン台と幅があり、具体的な武装の要領も1隻ずつ異なるものの、基本的には以前の武装商船「メーヴェ」「ヴォルフ」のプラクティスを踏襲している。水偵は全艦搭

載。「コメート」「コルモラン」「ミヘル」には、以前III型という計画Uボートに搭載するため開発されたLS型と称する小型魚雷艇が搭載され、実戦でも何度か使われたことがある。できるだけ外見に癖がないのも選定条件で、武装の隠蔽などの都合によってはオリジナルから基本形状が変わった例もある。当時英海軍が使っていた仮装巡洋艦に対し、額面上はサイズも砲力も劣るように見えるが、同種艦同士で勝負すると必ずドイツが勝った。「コルモラン」のように正規の軽巡洋艦と相討ちに持ち込んだものもある。かと思えば「シュティアー」は普通のリバティ船と撃ち合って共倒れしており、本当は運やその場の戦術次第らしい。20cm砲装備の重巡洋艦には全く歯が立たず、一方的にやられてしまう。初期の出撃艦は4隻が生還したが、そのまま解役された2隻と、英仏海峡で損傷し外洋に出られなかった「コロネル」を除き、最終的にはすべて失われた。この中には日本滞在中に爆発事故に巻き込まれた「トール」も含まれる。

一方、実際に通商破壊活動に従事した艦はいずれも戦果を挙げており、トップスコアは「アトランティス」「ピングウィン」「トール」が15万総トン前後ではほぼ拮抗するが、隻数では「ピングウィン」の32隻が残る2者の22隻を大きく引き離し、逆に作戦行動期間は最も少ない。これは同艦が南氷洋でノルウェーの捕鯨船団と遭遇し、母船3隻とキャッチャー11隻を一挙に拿捕したため。この話を聞いて何隻かが同様の獲物を求めたが、成果は上がらなかった。第二次大戦の仮装巡洋艦による戦果は136隻・86万総トンに達し、これは第一次の戦果に対し隻数でも33隻上回るが、兩次大戦間の海運界の船舶大型化を反映して、総トン数は倍以上の増加となっていた。

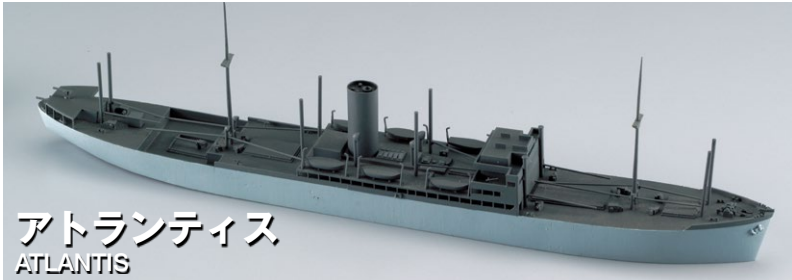
確かにその戦果は同時期のUボートのそれと比べたら微々たるも

ので、ドイツ側から見たコストパフォーマンスもそれに対して分がよいものだったかどうかは検討の余地がある。だが、仮装巡洋艦の改造は技術的には潜水艦の新造より簡単だったはずで、何より受け手の連合軍側からしてみれば、潜水艦よりはるかに広い海域に対して全く別の対策を講じなければならない点で厄介極まりない存在だった。拿捕戦術は、ドイツにとっては貴重な資源のボーナスを獲得できる可能性もあるし、第三者の我々にしてみれば人道性の面で好意的にとらえたい余地が大きい。もちろん実際はそんなに紳士的なきれいごとでいつも済んだわけではなく、攻撃側としてはとりわけ標的側の無線電信によって自らの存在情報が漏洩するのを嫌って問答無用の攻撃をかける場合もあったし、処分した敵船の乗組員や船客の処遇は頭の痛い問題で、対応に著しく適切を欠いて戦犯に問われた艦長もいた。航空機とレーダーの発達によって、ごく近いうちにその活動が潜水艦以上に困難となったであろうことも目に見えている。連合軍側の包囲網による有形無形のプレッシャーに耐えつつ、時に見えない敵を避け、時に見えない獲物を追いかけて、七つの海を何百日もさまよい続ける仮装巡洋艦の戦いは、軍艦と商船と地球を知り尽くした繊細かつ大胆な男でなければ務まらない、高度で過酷な戦場だった。

German Navy had to rely much on auxiliary merchant cruiser as commerce raider. Though surface raider tactics was to become unrealistic sooner or later, those units managed to attract allied eyes well through many months.

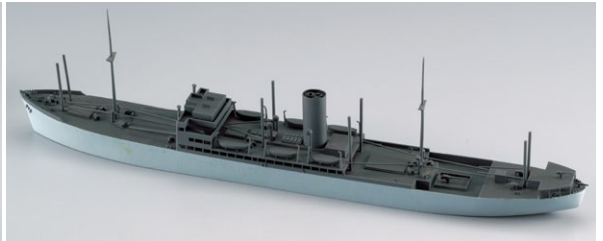
第二次大戦のドイツ通商破壊艦（商船改造）一覧

艦名	HSK	Schiff	raider	旧名	建造年	総トン数
Orion	1	36	A	Kurmark	1930	7021
Atlantis	2	16	C	Goldenfels	1937	7862
Widder	3	21	D	Newmark	1929	7851
Thor	4	10	E	Santa Cruz	1938	3862
Pinguin	5	33	F	Kandelfels	1936	7766
Stier	6	23	J	Cairo	1936	4778
Komet	7	45	B	Ems	1937	3287
Kormoran	8	41	G	Steiermark	1938	8736
Michel	9	28	H	Bielsko	1939	4740
Coronel	10	14	K	Togo	1938	5042
(Hansa)	-	5	-	Meersburg Glengarry	1939	9138



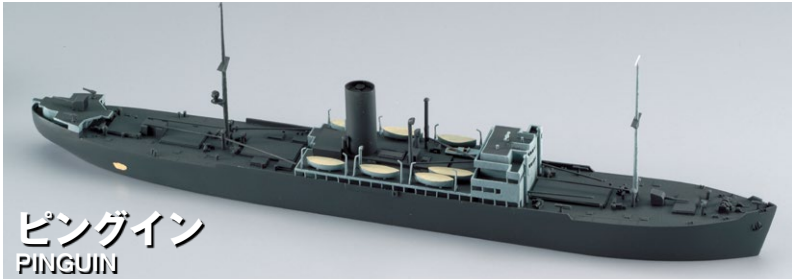
アトランティス ATLANTIS

1940年3月末の出撃から翌年11月の戦没まで、連続作戦行動期間約600日はドイツ仮装巡洋艦の中でも最長。昔から最もよく引き合いに出される1隻だが、これは艦長ベルンハルト・ロッゲ大佐が戦後も西ドイツ海軍の要職にあったことや、拿捕処分した船の1隻「ザム・ザム」にフォトジャーナリストを含むアメリカ人船客多数が乗っており、現場の様子が当時から一般に伝わっていたことなどが重なったためと思われる。作例は「ピングイン」の図面をもとにしており、多少大雑把ながら現存写真に基づきおおむね最終時と思われる状態を再現した。改装完成時は中央にダミー



アトランティス German Auxiliary Cruiser ATLANTIS, model length 221.5mm

アンネルを持っていたが、商船としてはかえって違和感があるため実戦では使わなかったようで、作戦行動中の写真を見ると日本など他国の船のカラーリングに塗り替えたり、こまめにデリックバスターの配列を変えたりなどの偽装工作が確認できる。もともと三島型の船で、1・2番船倉の左右に隠し砲座を設けた関係で変則的な二島型になったが、行動中は5番船倉の側面を取り繕って全通甲板船に見せていた。形はだいぶ違うが、寸法はぴったり「君川丸」と一致するので、興味ある方は改造で作ってみてはいかが。



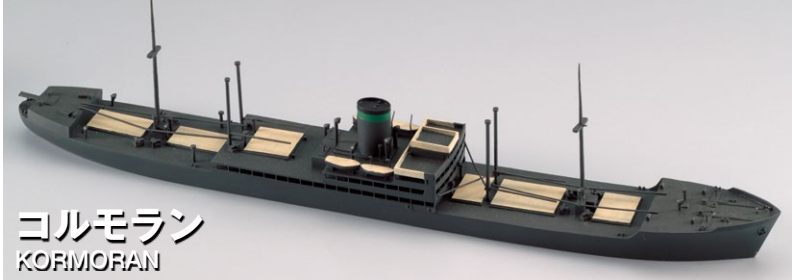
ピングイン PINGVIN

「アトランティス」（「ゴルテンフェルス」）の姉妹船「カンデルフェルス」を改装したもので、仮装巡洋艦としての武装の量はほぼ同じながら艦装要領は異なる。1940年6月出撃、翌年5月18日ソマリア東方沖のインド洋で英重巡「コーンウォール」に撃沈された。所有社ドイツ・ハンザ汽船（DDGハンザ）はインド航路をメインとしており、当該海域はホームグラウンドでもあった。オリジナルの船体は三島型だが全通型に改め、前後のウェル部分に設けた砲座をパネルで完全に隠蔽している。



ピングイン German Auxiliary Cruiser PINGVIN, model length 221.5mm

これと同様に模型では省略しているが、魚雷発射管開口や機雷敷設口もあり、他にも中央船楼の甲板室増設、デリックポスト一部撤去、通風装置・天窓多数の追加など、日本の特設巡洋艦や特設砲艦兼敷設艦よりずっと手の込んだ改装内容となっていた。商船タイプとはいえ、艦装砲座などを全部オープンにした状態で作れば相当面白い造形になるだろう。



コルモラン KORMORAN

「オリオン」「ヴィダー」とともにドイツ二大船会社の一つハパグ（HAPAG:ハンブルク・アメリカ・ライン）の所有で、第二次大戦のドイツ仮装巡洋艦では最大の船。寸法164×20mは当時の一般貨物船としても特に大きく、これに匹敵するものは日本にはなかった。豪鯨巡「シドニー」との相討ちという劇的なエピソードがあるため比較的知名度が高い。武装は「アトランティス」とほぼ同じで、ここでは省略しているが船首楼と船尾甲板室の左右、2・4番倉口内に15cm砲、前部ツイン



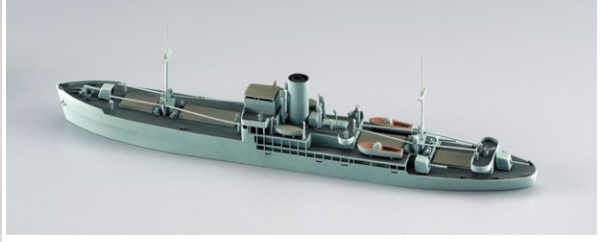
コルモラン German Auxiliary Cruiser KORMORAN, model length 234.5mm

ポスト左右に連装魚雷発射管、5番倉に水上機（図面では上下2機）、6番倉に魚雷艇を収納する。オリジナルデザインの船首尾にあるツインポストは撤去。作例のドゥンケルグラウのほか、ヘルグラウで船首楼上に砲座（偽砲座？）を置いた写真も残っている。サイズは川崎型タンカーとほぼ一致するものの、形状がかなり異なり改造は難しい。



トール THOR

仮装巡洋艦では2番目に小さいながら、資料によっては総トン数で最大スコアをあげたとされることもあるエース艦。イギリスの仮装巡洋艦を3度も下した実力派でもあるが、撃破した1隻「アルカントラ」は兩次大戦で100隻を軽く超える英仮装巡の中で唯一、二代にわたってドイツのライバルに苦杯をなめた艦名となった。小さくても武装の量は「アトランティス」などとほとんど同じで、2



トール German Auxiliary Cruiser THOR, model length 174.5mm

番船倉の両側に隠し砲座を持つが、本船の長船首楼船形はもとからで、日本人にはあまりなじみがないが欧米では典型的な青果運搬船の形態だった。所有社はオルテンブルク・ポルトガル蒸気船輸送といい、旧船名は立ち回り先であるカナリア諸島のサンタ・クルス・デ・テネリフェに由来するらしい。姉妹船「グラン・カナリア」は潜水母艦「エルヴィン・ヴァスナー」となった。

武装	在役期間	戦果	備考
6-15cm, 1-75mm, 4-37mm, 4-20mm, 6-53.3cmTT, 水偵1, 機雷228	-1939.12	11(73478)	1941.8帰還後他任務に転用
6-15cm, 1-75mm, 2-37mm, 4-20mm, 4-53.3cmTT, 水偵1, 機雷92	1939.11-1941.11	22(145968)	英重巡デヴォンシャーにより撃沈
6-15cm, 1-75mm, 4-37mm, 4-20mm, 4-53.3cmTT, 水偵2	-1939.9	10(58644)	1940.10帰還後解役
6-15cm, 1-37mm, 4-20mm, 4-53.3cmTT, 水偵1	1940.3-1942.11	22(155191)	横浜港でウッカーマルク爆発事故により延焼全損
6-15cm, 1-75mm, 1-37mm, 4-20mm, 4-53.3cmTT, 水偵2, 機雷300	1940.2-1941.5	32(154710)	英重巡コーンウォールにより撃沈
6-15cm, 2-37mm, 4-20mm, 2-53.3cmTT, 水偵2	1942.5-9	4(30728)	米商船スティープン・ホプキンスにより撃沈（双方戦没）
6-15cm, 1-60mm, 2-37mm, 4-20mm, 6-53.3cmTT, 魚雷艇1, 水偵2	1940.6-1942.10	7(41568)	英魚雷艇MTB 236により撃沈
6-15cm, 1-75mm, 4-37mm, 5-20mm, 6-53.3cmTT, 魚雷艇1, 水偵2, 機雷360	1940.10-1941.11	11(68274)	豪鯨巡シドニーにより撃沈（双方戦没）
6-15cm, 1-105mm, 4-37mm, 4-20mm, 6-53.3cmTT, 魚雷艇1, 水偵2	1941.9-1943.10	17(127018)	米潜ターボンにより撃沈
6-15cm, 6-40mm, 8-20mm, 水偵3	-1942.12	-	出撃直後損傷 他任務に転用
8-15cm, 2-105mm, 8-40mm, 36-20mm, 4-53.3cmTT, 魚雷艇1, 搭載機			改装中止

注
1 艦名の後の符号は、HSKが独海軍の仮装巡洋艦としての通し番号、Schiffが艦籍番号（1～53・171が知られており、一定規格の艦籍に編入された民間船などのリストナンバーらしいが、船種が雑多で同じ番号が重複していることもあり詳細不明）、raiderが連合軍側が付与した独仮装巡洋艦の識別符号。「ハンザ」はデンマーク侵攻時拿捕した英貨物船。ハンブルクで改装中空襲で造船所施設が壊滅したため工事中止された。
2 兵装のうち水偵はハインケルHe114かアラルドAr196。「ハンザ」はFa330簡易回転翼機の計画とされる。魚雷艇は「コメット」から順に[LS2～4]が搭載された。
3 戦果は資料によって差がある。

VII型Uボート



Uボートと言えはまず思い浮かぶのはVII型。名画の主役として不動の地位を確立し、模型の世界でも最多量産タイプという肩書などでキットの発売が多いのはC型で、大戦前期に名声をあげたB型は意外と商品化に後れをとった。模型とともにVII型の実像を概観する。

VII型Uボート

ヴェルサイユ条約によって厳しい軍備制限を受け続けていたドイツは、巧妙な手段で温存していた技術力を活用して条約破棄からものの数年で再び強大な軍勢力を獲得した。とはいえ、さすがにウツワのサイズが違う軍艦は陸軍や空軍ほど思うに任せず、水上艦艇の圧倒的戦力不足を潜水艦の集中建造で補ったことは周知のとおり。再興したUボート部隊の中軸をなしたのは、司令官カール・デーニッツが第一次大戦当時艦長として乗っていたUBIII型の直系にあたるVII型であり、1100隻以上が建造された第二次大戦のUボートの3分の2を占めた。日本でいえば潜中型より潜小型に近いぐらいの小さな艦が主力生産型とされたのは、ヴェルサイユ条約にかかわってイギリスとの間で結ばれた新たな保有制限枠の中で少しでも数を作りたいからとされるが、かつて撃沈されて捕虜になった経験も持つデーニッツの連合軍シーレーンに対する並外れた闘争心を象徴する兵器としては、ある種宿命的なマッチングだったともいえる。

このクラスの潜水艦としての基本

VII型Uボート

型式	建造数	排水量 (水上) 排水量 (水中)	全長 m	速力 (水上) 速力 (水中)	航続距離 (水上) 航続距離 (水中)	主砲	魚雷発射管 (艦首) 魚雷発射管 (艦尾) (搭載魚雷数)
VIIA	10	626 745	64.5	16 8	10/6200 4/73-94	1-88	4-533 1-533 (11)
VIIIB	24	753 857	66.5	17.2 8	10/8700 4/90	1-88	4-533 1-533 (12)
VIIC	657	769 871	66.5	17 7.6	10/8500 4/80	1-88	4-533 1-533 (14)

VIIC41型は安全潜航深度が100mから120mに増大した以外VIIC型と同じ。

VII型Uボート (イラスト：高荷義之)。ドイツ潜水艦は早い時期に艦橋の屋根を廃止し、夜間水上戦闘時の被発見率低下に努めた。また、多くの国の潜水艦が用いた全面黒 (または濃紺) 塗装を採用せず、グレイの濃淡のみに徹していたのも特徴だった。これらによって我々は知らず知らずのうちに、「大西洋の灰色狼」というキャッチフレーズをUボートに最も似つかわしいものとして刷り込まれている。

15隻を上回る実績をあげた。デーニッツの用兵術は必ずしも航路や積荷に執着せず、海上護衛の手薄な海域に兵力を集中して船舶の保有量を効率的に削るスタンスであったため、連合軍の対潜兵力が増強されて近場での漁がはかどらなくなると、VII型の活用のためには洋上補給の充実が課題となった。初期は商船タイプの補給艦が水上艦艇の襲撃艦とあわせUボートの支援にもあたっていたが、42年中期からはXIV型給油潜水艦が出現。当初はより大型のIX型に任せていた北アメリカ東岸海域での作戦にVII型も参加し、Uボートは同年だけで太平洋戦争における米潜の全戦果を上回る620万トン余りの連合国商船を沈めた。第二期黄金時代と呼ばれるが、敵味方の兵力や作戦海域の広さ、商船被害など、潜水艦戦の規模自体が第一期よりはるかに大きい。

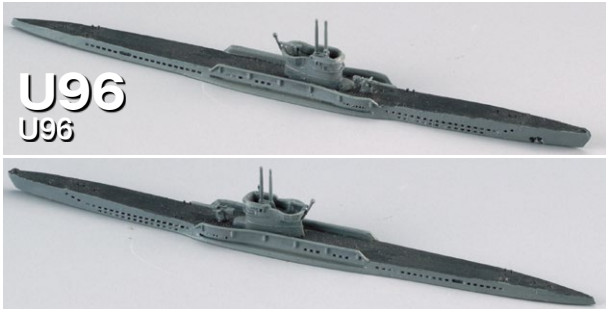
しかし、この頃からUボート自身の損失も目に見えて増大を始める。とりわけ高精度レーダーを搭載した航空機に夜間充電浮上中を襲われるケースが深刻で、護衛艦艇の数的充足やヘッジホッグなど有効な新兵器の導入もあり、43年春から連合軍側がビスケー湾で大規模対潜掃討作戦を展開して5月だけで40隻近いUボートが戦没、デーニッツは北大西洋での大規模攻撃作戦を中止せざるを得なくなった。同年後半から安全潜航深度を増大したVIIC41型の就役が開始、次の改良型であるVIIC42型も用意されていたものの、もはや第一次大戦時と同様のコンセプトで作られた水上行動主体の潜水艦は通用

しない時代となっていた。VII型系の建造計画は縮小され、終戦までにほぼ生産を終了したが、次世代の外洋潜水艦XXI型はぎりぎり戦争に間に合わず、VII型は水中充電装置を備えて終戦まで細々と作戦行動を続けた。

VII型のキット

Uボートのキットは大は1/32までであるそうで、スケールを問わなければ大抵のサブタイプまで商品化されているが、1/700では小さすぎるせいか、決して豊富とはいえない。20世紀中はハセガワのVIIC・IXC型が、それ自体の出来の良さもあって唯一のラインナップとなっており、大戦前期のエース艦長の乗艦であるVIIIB型が出たのは比較的最近のこと。ベテランモデラーにしてみれば基本的なバリエーションキットぐらいの認識でもおかしくないが、パーソナリティーの面から見ればB型が先にあっていいぐらい。ハセガワはエース艦長セットというバリエーションキットも過去2種類出しているが、1/700ではエンブレムマーキングが小さすぎて模型映えしないうえ、VIIC型は数のわりに単艦で突出した戦果をあげたものが乏しく、艦長の顔触れもB型からはかなり見劣りしてしまい、いまいち印象が弱かった。やはり個性押しならB型で、C型は他とのセット企画で旨味が出るように思う。

Type VII U-boat represented Dönitz's outstanding antagonism against allied convoy system. This design proved suitable for night surface attack to convoy concentrating as many as available units. Nearly 700 sisters were built.



U100・333

German Submarine U100 and U333, model length 95mm

童友社「世界の潜水艦」シリーズの製品。最初はホビーボスブランドで発売されたが、多少箱の装丁が変わった程度で内容は同一。船体形状が格段に良くなり、B型が初登場した点でも目を引いた。実際は船体を含むほとんどの部品が共通で、司令塔だけそれぞれ2通

りの専用パーツが入っている。手すりは削っておく方がいいだろう。最大の悩みは、シリーズラインナップの価格を統一している関係で割高になっていること。「U100」と「U333」はどちらも司令塔に体当たりを受けた艦として知られ、前者の艦長ヨアヒム・シェ

ケは戦死、後者の艦長ベーター・クレマーは生還を果たし、後にデーニッツの身辺警護隊長となる。



U47・99

German Submarine U47 and U99, model length 95mm

フライホーク版VII B型。同社自慢の細密高級キットで、エッチングパーツを使わなくても形にはなるが、ディテールの相性を考えるときっぱり同梱のエッチングパーツと組み合わせるのがよさそう。船体水抜き穴のモールドがややつぶれ気味で、スリットも強調しすぎ

ているが、まあやむを得ないところか。「U47」「U48」「U99」の3タイトル、2隻入りとドック付きの2種類あり。「U47」は艦長ギューンター・ブリーンによる戦艦「ロイヤル・オーク」撃沈で抜群の知名度を誇り、「U99」は第二次大戦の撃沈トン数1位を記録した

オットー・クレッチマーの戦果の大半を叩き出した、それぞれ名と実のエース艦。



U81・83

German Submarine U81 and 83, model length 95mm

アオシマ版。いずれもセット企画用の商品で、「アーク・ロイヤル」とC型「U81」の組み合わせに続き、「ドーセットシャー（ビスマルク追撃戦）」にB・C型が付属した。一見同じようランナー自体全く別物になっており、ディテールが異なるだけでなく、1mmほど

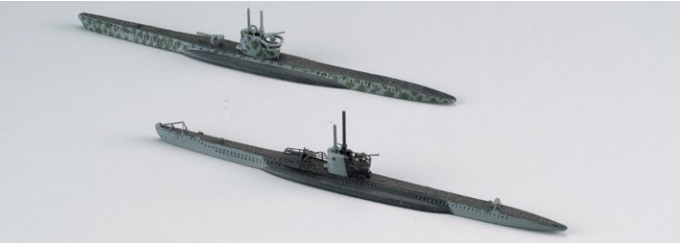
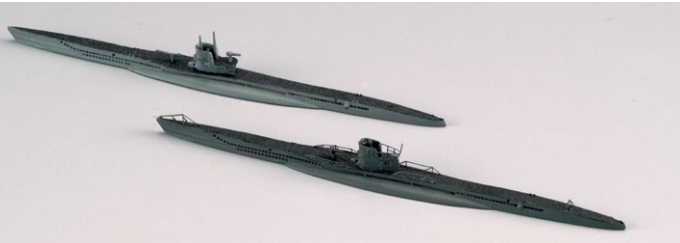
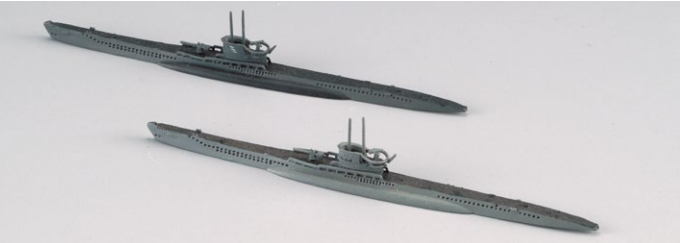
の全長の違いもきちんと変えてある。やや部品のエッジが甘いものの充分対応可能。現時点では上記のおまけ以外に市場には出ていないが、いずれ単品の発売もあるのではと期待したい。「U69～102」はB型とC型の過渡期で艦名が入り混じっており、「U81」

がC型、「U83」がB型。どちらも地中海で行動しており、後者の迷彩はイタリアア。

VIIA～C型Uボートの就役状況

年月	VIIA		VIIB		VIIC		VIIC41		備考
	就役	減少	就役	減少	就役	減少	就役	減少	
～1939.8	10		8						開戦時保有数
1939.9-12		3	3	1					
1940.1-3		1		3					
1940.4-6			4	2					フランス降伏
1940.7-9			1	2	5				
1940.10-12		2	3	7					
1941.1-3			1	3	22	2			
1941.4-6			2	1	39	2			アフリカ西岸進出
1941.7-9			2		36	4			地中海進出
1941.10-12				1	46	13			アメリカ参戦
1942.1-3					35	11			北米東岸進出 (IX型)
1942.4-6				2	43	5			XIV型活動開始
1942.7-9					47	23			
1942.10-12					53	27			Uボート月間最高戦果

U96
German Submarine U96, model length 95mm
長らく1/700艦船模型界に君臨し続けてきたハセガワ版VIIC型。上甲板がやや広めでサドルタンクが小さく、コンバーチブルが売りの司令塔は実際にはIX型のもの（2本の潜望鏡が隣接している）という減点要素もないではないが、ディテールの細密度や切れ味は今の目で見ても全く色褪せておらず、モールドのスケールバランスの面ではむしろ最近のキットと比べてもなお優れている。他と異なり下部船体はついていない。沢山買うと沈船パーツの扱いが大仕事になる。「U96」は映画「Uボート」の主演。フィクション作品では珍しく実在した艦名を流用しているが、それに恥じないリアル志向の作風は艦船ファンの誰もが高く評価しているはず。



年月	VIIA		VIIB		VIIC		VIIC41		備考
	就役	減少	就役	減少	就役	減少	就役	減少	
1943.1-3				2	50	26			
1943.4-6				52	49				北大西洋作戦中断
1943.7-9		1	1	47	43	3			イタリア降伏
1943.10-12				3	38	34	24		
1944.1-3				28	46	21	1		
1944.4-6				21	48	18	4		連合軍ノルマンディー上陸
1944.7-9		1		6	49	10	4		
1944.10-12					21	4	3		
1945.1-3					39	1	15		
-1945.4		2		3	72	1	24		
合計	10	10	24	24	575	514	82	51	

注 減少の欄は戦没、自沈、除籍、海外売却（U573）を含む。就役前に港内被爆で失われたものは含んでいない。

ISBN978-4-499-23430-6 C0076 ¥3800E

定価(本体3,800円+税)



9784499234306



1920076038006



The visual guide of wartime merchant marine; Battle of The Atlantic

戦時輸送船
ビジュアルガイド3

3